恋友～彼女へ贈る

小田 光香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
恋友～彼女へ贈る

【Ｎコード】
Ｎ８９８３Ｅ

【作者名】
小田　光香

【あらすじ】
人はどうして今に満足できないのだろうか？本当は一緒にいれればそれで良かったのに…キスに…セックスに…なんの意味があるのか？どうして別れを選んでしまったんだろう…

第1章～痛恋

今思えば綾子と会ったときに、僕は気づいてなかっただけで、僕はもう彼女に恋をしていたのかもしれない。でも少なくともそれは現実味を帯びた恋ではなく、ただ憧れていただけの恋だっただろう。

俺が彼女にあったのは近所のファミレスだった。高校生になった僕は、学校が終わるとなにをするわけでもなくその頃もっとも親しかった亮介とファミレスでお喋りを楽しんだ。

初めてファミレスに亮介と行ったときだ。店に入ったときに接客してくれたのが綾子だった。僕の頭はその可愛いというよりは綺麗という方が似合う女性を大学生だと決めつけた。ところが席に着くと亮介は

「あのコ中学の同級生だぜ。中学んときはパッとしないやつだったのにずいぶん綺麗になったなぁ」と僕に言った。今になって考えてもあのときの僕の勘違いは仕方なかったように思える。

まだあのときの僕はそこまで彼女を意識してなかったと思う。ただそれからしょっちゅう亮介と来るようになり、来る度にいるそのコを見て、自分と同じ歳でも頑張って働いてる人もいるんだぁというように、1人の人として尊敬の気持ちが生まれた。女性として好きになったのはそれから2カ月くらいたった後だ。約束より早く、ファミレスに着いた僕は宿題をやりながら亮介を待った。が、約束の時間の少し前に、亮介からメールで

「ゴメン、行けない」と来た。注文はしてしまったのでしばらく宿題をやって帰ることにした。9：30ごろに帰ろうとして駐輪場に行くと、バイトが終わった綾子がいた。そして彼女は

「勉強頑張って」と僕に微笑んで帰って行った。それが客に対する笑顔なのか同い年であり僕に対する親しみをこめた笑顔かは分からなかったけど、とにかく僕はあの笑顔を見て恋をせずにはいられなかった。その日からいろんなことが変わった。

まずはそこへ行く理由が変わった。それまでは1人でなんて行かなかったのに僕は暇があれば1人でも行くようになった。もちろん目的は明らかだ。そしてもうひとつ、彼女の顔を見れなくなった。彼女が注文を聞きにくるだけで自分の顔が赤くなるのを感じたからとてもそんな顔を見られるわけにいかなかったんだ。

　でもここで1つの問題点が出てきた。

どんなに僕が彼女を好きになろうと僕が彼女に近づく手段などないのだ。

いや、正確に言うとあったのだ。

バイトが終わるのを待ってアドレスを聞くなどがあったのにあのころの僕はそれは一種の罪なのではないだろうかと思うくらい、恋愛に対して無知であり、かつ恋愛に対して過剰なほどの理想をいだいていたからそんなナンパまがいなことを…などと自分で出した答えにふたをしたりしていた。そんなわけで彼女との接点は作れぬままに時間だけ過ぎて夏が終わり、秋が過ぎ冬が過ぎ春が過ぎ、いつのまに一年がたって夏が来た　一年もたつと、もはやその片想いは苦しみでしかなかった。

彼女との接点を持ちたいと思いながらも行動に移せない自分にイライラしていた。

そして6月の半ば。

僕は彼女にアドレスを書いた紙を渡すことを決心したんだ。

でも相当臆病だった僕にとって、それを決心しただけでも誉めてもらいたいぐらいだった。実行するなんてとても無理に思えた。バイト終わりに待ち伏せをしたけど出てきた瞬間に走って逃げた。彼女が料理を運んで来たときに渡そうとしたけど逃げるようにトイレに駆け込んでしまった。結局その紙を彼女に渡したのは亮介だった

そしてその晩、綾子から

「はじめまして。お友達からアドレス受けとりました」とメールが来た。嬉しさに雄叫びをあげるしかなかった

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8983e/

恋友～彼女へ贈る

2010年12月10日02時10分発行